

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>(1)道徳教育の充実 ・高校生として望ましい規範意識、生活習慣を確立する。 ・自己肯定感を高めるとともに、他者に対する思いやりなど、周囲と豊かな人間関係を構築することのできる豊かな心を育む。</p> <p>(2)キャリア教育の充実 ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動とおして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。</p> <p>(3)高い志を有し、学ぶ意欲を向上 ・将来の生き方を考えさせることで主体的に学ぶ姿勢を涵養するとともに、社会問題の解決に向けて必要となる確かな学力を育成する。 ・授業をおして論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>(1)規範意識、良き生活習慣の確立 (2)キャリア教育の充実 (3)主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 (4)情報収集、情報発信の充実</p>
---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------

年度当初				評価結果(9)月				
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
規範意識、よき生活習慣の確立	①さわやかな挨拶ができる	◎S3、S2生は校内で自分から挨拶ができている生徒が多い。 ○朝の挨拶運動に生徒会執行部の生徒も参加した。 △挨拶の声が小さかったり、機械的な挨拶が見られることがある。また、関わりのない教員や外部からの来訪者には挨拶できない生徒がいる。	①普段の生活の中で、自然に自分から心こもった挨拶ができる。また、相手の状況に応じた適切なコミュニケーションがとれる。	①-ア 挨拶することの意味をSHR、授業、部活動、校外研修等さまざまな場面を通して生徒に伝え、学校全体でより意識を上げる。 ①-イ 教員から率先して挨拶を行い、互いの挨拶を習慣化するとともに、挨拶できていない生徒に対する声かけを全職員が意識して行う。 ①-ウ 生徒会執行部を中心に、生徒同士で挨拶しあう機会を増やす。	・ステージが上がるごとに挨拶が良くなっている。 ・授業や集会での挨拶は出来ている生徒が多い。 ・ホームルームを活用し、教職員から挨拶する意味を伝えているが、「自分から挨拶ができる」「さわやかな挨拶ができる」生徒がまだ少ない。 ・1学期は生徒会執行部を中心とした挨拶運動は未実施。	C	・挨拶することの意味等をHR等で繰り返し話すなど、さわやかな挨拶ができるよう継続して指導する。 ・生徒会新執行部を中心に、生徒同士で挨拶し合う活動を推進する。	
	②時間を意識し、今、何をすべきかを考えて行動する	【学校生活】 ○落ち着いた生活をしている。時間を意識して行動できる生徒が増加している。 △チャイムが鳴っても、授業の準備ができていない生徒がみられる。 【家庭生活】 ◎遅刻回数は少なく、一人年平均約1回であった。 ※昨年度【遅刻回数:459回】【一人あたり1.07回】 ○ほとんどの生徒は余裕を持って登校しているが、遅刻者や始業間際に登校する生徒は固定化している。 △4点固定、携帯の使用方法などを含めた生活リズムの固定化については、保護者説明会などで繰り返しお願いしているが、十分とはいえない。	②-1 時間を意識して行動することができ、授業の準備、集会の集合など時間前には完了している。 ②-2 遅刻をしないなど、時間を守ることの大切さを認識し、規則正しい生活をおくることができる。 【目標】 遅刻回数:1人年平均1回以下 ②-3 4点固定を日常的に実施するなど、家庭でも生活リズムが整い、学習習慣が確立している	②-1-ア 学校生活時間内で常に時間を意識させ、余裕を持った行動が出来るよう、継続した声かけを行う。 ②-1-イ 教員が出来る限り早く教室や集会場所に行き、生徒の活動を促す。 ②-2-ア 遅刻回数など、生徒状況を常に把握し、保護者との連携を密にして、タイムラグのない指導を心がける。 ②-2-イ 遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。 ②-3 4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導する。	②-1-ア 学校生活時間内で常に時間を意識させ、余裕を持った行動が出来るよう、継続した声かけを行う。 ②-1-イ 教員が出来る限り早く教室や集会場所に行き、生徒の活動を促す。 ②-2-ア 遅刻回数など、生徒状況を常に把握し、保護者との連携を密にして、タイムラグのない指導を心がける。 ②-2-イ 遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。 ②-3 4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導する。	・チャイムが鳴った時点で授業の準備をしている生徒は多くなっている。 ・集会等の集合は良好である。 ・執行部を中心に、準備・点呼の意識が高い生徒が増えてきた。 ・多くの生徒はほとんど遅刻をしていない。 【遅刻回数(4~8月)】 S1:26回(1人平均0.21回) 学校全体(1人平均0.32回) S2:44回(1人平均0.36回)(不登校傾向や通院等を除く) S3:56回(1人平均0.38回) ・4点固定が徹底できていない。 ・部活動終了後の帰宅時刻がかなり遅く、勉強の開始も遅い生徒がいる。	B C	・すべての生徒がチャイムが鳴った時点で授業準備ができてるように、早めに教室等に行き、継続して指導する。 ・ホーム長など生徒のリーダーを育成し、生徒同士で整列できるようにする。 ・「生活の軌跡」を使って、個人面談等を実施する。 ・スピード感のある家庭連絡を継続する。 ・部活動終了後速やかに帰宅するよう部顧問等から指導する。
	①チャレンジグループ活動の計画的な実施、及び内容の充実	【生徒の実態】 ○社会人講師の講演により、生徒の進路意識が高まった。 ○個人研究に対するアドバイスをを行うことで、生徒の意欲が高まり、活動が充実してきた。 ○フィールドワークで実際に現場を訪れて調査する生徒も増えた。 △グループ全体として地域に向かう活動は少なく、単発的なものもあり、生徒の主体的な取組になっているとは言えない。 △社会に対する関心が希薄なため、自ら進んで社会と関わろうとせず、必要な知識が不足している。 【教員】 ○ステージ主任の連携が可能であり、年度をまたいだ計画性、継続性のある取組になりつつある。 △チャレンジグループ活動が体系化されていないため、マンパワーに頼っている。 △教員にチャレンジグループ活動に取組むための余裕がない。	①-1 社会に対して関心を持ち、自ら気になる課題、解決の探究テーマを設定してフィールドワークなど適切な調査活動や情報収集を行ない、論理的・合理的な結論を出すことができる。 ①-2 チャレンジグループ活動をおして、自らの進路目標を明確にし、将来、社会に貢献しようとする態度を身につける。 ①-3 3年間を通した指導目標・方法・計画を明確化・体系化する。 ①-4 経験のない先生も内容ややり方を確認でき、チャレンジグループの運営できる。	①-1-ア チャレンジグループ活動の情報収集し、具体的な活動計画を立てさせる。 ①-1-イ 個人探究の具体的なテーマを早期に設定し、長期休業中を利用した活動を計画させる。 ①-1-ウ チャレンジノートを有効活用し、内容の充実や記録の工夫を図る。 ①-1-エ 研究テーマに応じた、調査方法、情報収集の仕方について、適宜指導し、完成度の高いレポート作成に向けた工夫を行う。 ①-2 上級学校における学びや職業の選択と結びつけ、将来につなげる取組とする。	①-1-ア チャレンジグループ活動の情報収集し、具体的な活動計画を立てさせる。 ①-1-イ 個人探究の具体的なテーマを早期に設定し、長期休業中を利用した活動を計画させる。 ①-1-ウ チャレンジノートを有効活用し、内容の充実や記録の工夫を図る。 ①-1-エ 研究テーマに応じた、調査方法、情報収集の仕方について、適宜指導し、完成度の高いレポート作成に向けた工夫を行う。 ①-2 上級学校における学びや職業の選択と結びつけ、将来につなげる取組とする。	・S3の研究発表会に参加し、S1・S2生徒の研究への意欲が増した。 ・講演会や大学訪問など生徒にとって次のステージへの意欲につながる研修ができています。 ・まだ少ないが、フィールドワークを行って調査・研究を進める生徒が増えた。 ・S3の研究発表会が7月になり、受験への体制が例年より早まった。 ・教員が3年間を意識したチャレンジグループ作りを行っており、生徒の取組も体系化されてきた。 ・まだ、マンパワーに頼っている状況は否めない。	B	・10月以降のチャレンジグループ調査、新聞活用、小論文などチャレンジグループ活動を充実させる。 ・キャリア教育全体計画の活用を図り、意志統一をして探究活動をすすめる。
キャリア教育の充実	【図書館活用・知のオアシス】 ◎図書館はS3生のチャレンジ活動での利用は多い。 ○フィールドワーク・クイン関西の事前活動として図書館を活用して情報収集・見学の視点を明確にできた。 ○県立図書館・博物館の見学を実施し、進路や文化活動の視野を広げた。 △知のオアシスの活用がなされていない。	①-5 生徒が自主的に図書館を利用し、読書・探究活動に取り組んでいる。 ①-6 チャレンジのテーマに沿って、図書館活用がされている。 ①-7 チャレンジグループ活動の展示など、知のオアシスが有効に活用されている。	①-5-ア 展示の工夫など、新聞や図書館の蔵書の有効活用を図る。 ①-5-イ 授業での図書館活用や図書館企画を推進する。 ①-6 他図書館との連携など、情報源の有効活用について指導する。 ①-7-ア チャレンジの各グループ、ステージを越えて内容を共有できるよう展示スペースを設ける。 ①-7-イ 成果報告書や研究発表作品の展示、ポスターセッション等を行う。	①-5-ア 展示の工夫など、新聞や図書館の蔵書の有効活用を図る。 ①-5-イ 授業での図書館活用や図書館企画を推進する。 ①-6 他図書館との連携など、情報源の有効活用について指導する。 ①-7-ア チャレンジの各グループ、ステージを越えて内容を共有できるよう展示スペースを設ける。 ①-7-イ 成果報告書や研究発表作品の展示、ポスターセッション等を行う。	・チャレンジグループ活動時に本の貸し出しが集中するなど、図書館の有効活用ができています。 ・知のオアシス前の掲示もよい。	B	・知のオアシス内の掲示も充実させる。 ・フィールドワーク・クイン関西の事前情報収集に努め、見学の充実を図る。 ・図書委員会を活用し、展示を工夫する。	
	【フィールドワーク・クイン関西】 ○直接体験したことで、その後の学習意欲が高まった。 △研修先の選定が難しかった。	①-8 見学や体験を通して、社会や自らの関心に対する理解を深め、その後の学習意欲や進路意識を高める。	①-8-ア 各グループで研修・体験させる目的・内容を明確に設定し、研修先について早期選定及び探究を行う。 ①-8-イ 有意義な研修先の引継ぎや、新しい見学先の開発に努め、次のステージに継続させる。 ①-8-ウ フィールドワーク・クイン関西で得た情報や課題を個人研究につなげる。	①-8-ア 各グループで研修・体験させる目的・内容を明確に設定し、研修先について早期選定及び探究を行う。 ①-8-イ 有意義な研修先の引継ぎや、新しい見学先の開発に努め、次のステージに継続させる。 ①-8-ウ フィールドワーク・クイン関西で得た情報や課題を個人研究につなげる。	・フィールドワーク・クイン関西はこれから実施するが、訪問先の選定など着々と準備が進んでいる。	現在保留	・有意義な研修となるように、事前の準備を十分に行う。 ・事後のアンケートを実施し、評価を分析する。	
②地域のことを知り、将来、地域貢献及び社会貢献の意識を向上させる。	【ボランティア活動】 ◎本年度も多くの生徒がボランティアに積極的に参加した。ボランティアに参加する生徒は、その活動をおして何かを学ぼうとする姿勢が感じられる。 ○図書館展示は好評であり、生徒は地域の理解を深めた。 ○ボランティアに参加することで、社会と関わり、あいさつ等のマナーを身につけつつある。	②-1 ボランティア活動やシンポジウム等に積極的に参加し、自分と地域社会とを結びつけようとしている。 ②-2 ボランティア参加の経験を生活に活かしている。(挨拶、清掃、時間意識等)	②-1-ア 各ステージやホームでボランティア体験報告を行うなど、事後指導を充実させる。 ②-1-イ S3の活動報告をS1、S2にも聞かせることで、早期からのボランティア活動への参加を意識づける。 ②-2 チャレンジグループでのボランティア活動など、各種ボランティア活動への参加を奨励する。	②-1-ア 各ステージやホームでボランティア体験報告を行うなど、事後指導を充実させる。 ②-1-イ S3の活動報告をS1、S2にも聞かせることで、早期からのボランティア活動への参加を意識づける。 ②-2 チャレンジグループでのボランティア活動など、各種ボランティア活動への参加を奨励する。	・ボランティア活動に参加する生徒は多いが、参加者が固定されている。 ・体験報告など、事後指導はまだ不十分である。	C	・参加者情報を担任・部顧問にも伝え、多くの生徒がボランティア活動に参加することを奨励する。 ・体験報告を行う場面を設定し、事後指導を充実させる。	
	【生徒会活動(地域を盛り上げる)】 ◎生徒会執行部の生徒が挨拶運動に参加した。 ◎西高祭をはじめ生徒会活動は、多くの生徒が計画的、主体的に取り組めた。 ○生徒会行事の企画・運営は、生徒が主体的にできるようになってきた。 △地域の人へのアピールがまだ不十分である。	②-3 生徒会活動(西高祭・球技大会等)を通して、生徒が何事にも主体的、かつ協力して取り組んでいる。 ②-4 地域から評価される生徒会活動の実施 ②-5 生徒会活動を通して将来への社会貢献・地域貢献意識も高まり、進路実現に向けた意欲と結びついている。	②-3 生徒会活動をS2生を中心に運営させて、S3生にサポートさせることで、行事を企画・運営するノウハウを下級生に受け継がれるように工夫する。 ②-4-ア 地域との連携活動ではどんなことができるのか、先進校の例などを基に自分たちで独自の方法を考えさせる。 ②-4-イ 長期休業等を利用して、他校の視察を実施する。 ②-5 生徒会活動や部活動での経験を、自分の進路希望と関連させて、進路実現を図る。	②-3 生徒会活動をS2生を中心に運営させて、S3生にサポートさせることで、行事を企画・運営するノウハウを下級生に受け継がれるように工夫する。 ②-4-ア 地域との連携活動ではどんなことができるのか、先進校の例などを基に自分たちで独自の方法を考えさせる。 ②-4-イ 長期休業等を利用して、他校の視察を実施する。 ②-5 生徒会活動や部活動での経験を、自分の進路希望と関連させて、進路実現を図る。	・執行部を中心として生徒会活動に頑張っている。西高祭や球技大会など、生徒の主体的活動となっている。 ・西高祭では地域の方にも喜んでもらえる企画をたて、来場者を増やした。 ・生徒会活動の取組が、他の活動への働きかけには至っていない。	B	・生徒会活動や部活動での経験を、今後の自分の進路実現につなげる働きかけを行う。 ・西高祭では地域の方にも喜んでもらえる企画をたて、来場者を増やした。 ・生徒会活動の取組が、他の活動への働きかけには至っていない。	

評価項目	具体的項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上	①授業規律の確保	【生徒の取組】 ○生徒が主体的に授業に向かう姿勢が向上している。 △学習習慣の定着は生徒による個人差が大きい。 【家庭学習時間2時間以上】 S1:60.0% S2:22.0% 【家庭学習時間5時間以上】 S3:23.9%(ただし、7月以降) △【課題提出状況】 90.7%(国、数、英、理、地公、保体) △学習時間はS1が目標時間を達成した時期も多いが、内訳をみると個々にも教科的にも偏りがある。 △部活動に多くの時間を費やしているため、課題・小テストの準備と、クラスαの活動ができていない。	①-1 学習目標を明確に持ち、積極的に学習している。 ①-2 自ら積極的に発言するのが当たり前の雰囲気がある。 ①-3 授業を中心に予習・復習を行ない、一定の家庭学習時間が確保できている。 【家庭学習時間目標】 S1:2:2時間以上の生徒が70%以上 S3:総体後5時間以上の生徒が50%以上 ①-4 課題の意味を理解し、課題提出状況が95%以上となっている。	①-1 年度初めに学ぶ目的を明示するとともに、各授業においては単元観と単元目標を提示する。 ①-2 聞くだけでなく、アウトプットの機会も取り入れた授業を工夫する。 ①-3-ア「生活の軌跡」を活用し、面談を通して家庭での学習習慣の指導を行なう。 ①-3-イ 授業時に予習のチェックを行う。 ①-4 課題提出は生徒個々の理解の把握であることを教員が共通認識し、「出した出さない」の評価にとどめない。	【家庭学習時間】 S1(2時間以上)39/122人(32%) S2(2時間以上)65/121人(54%) S3(5時間以上)5/149人(3%) ・家庭学習の時間が少ない。 ・学習習慣の定着は、生徒による個人差が大きい。	D	・授業の初めにねらいを明確にする。 ・毎日取り組める課題の内容を工夫する。 ・予習のチェックを行い、家庭学習の状況を把握する。 ・家庭学習や提出物が当たり前のこととして捉え、できていない生徒には、常に面談や声掛けをして、定着を図る。
	②思考力、判断力、表現力を高める授業の工夫	【授業改善】 ○生徒に発言を促したり、論述する授業を心がけており、一定の成果は上がってきている。 ○生徒自身が考える機会を増やすなど、授業に対する取組みは年々向上しているが、△指示がないと動けない生徒が多い。 ○生徒が発言したり、表現することへの抵抗は少なくなっている。 △校内授業研究会への参加者は多いが、先進校視察や研修会への参加者が少ない。	②-1 生徒が目標を持って、主体的に授業に取組み、論理的に自分の考えを表現することができている。 ②-2 学びの過程を大切にしたい学びあいが、どの授業においても日常的に行なわれている。	②-1-ア 授業で意識的に表現活動を取り入れたり、記述・論述する機会を増やし、論理的に思考する習慣を身につけさせる。 ②-1-イ 研究テーマを明確にして校内研究授業を年2回実施し、より充実した授業の実践に取り組む。 ②-1-ウ テストの出題も、思考を促すような問となるように工夫する。 ②-2-ア 教科会の充実、校内研究授業の継続及び充実、先進校視察を通して授業研究を充実させる。 ②-2-イ 講義式の授業ではなく、アクティブラーニングの手法を工夫した授業改革を進める。 ②-2-ウ 発問を工夫し、生徒それぞれが自分の意見を言えるよう努力する。	・アクティブラーニング等の手法の導入も有り、主体的に授業に取組み、論理的に発言する生徒は増えているが、生徒個々の意識には開きがある。 ・教科内での研究授業の実施はあまり進んでいない。	B C	・教科内での情報交換を活発にする。 ・11月に招へいする産業能率大学の大学教授の指導等を活かして、授業改善を進める。 ・思考力を問う調査の導入を検討する。
	③学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める	【進路関係】 ◎鳥大・鳥大オープンキャンパスの参加者は、意識も高く事前事後の提出物もきちんとしていた。 もっと多くの生徒に参加してほしい。 ◎S1の鳥大オープンキャンパスも好評で大学への関心が高まった。 ○卒業生の講話は生徒、保護者とも好評である。また、S3生の話はS2保護者会で好評であった。 △自分の将来を見通した、動機付けが弱い。	③-1 学校内外の進路行事(講演会やオープンキャンパス)に積極的に参加している。 ③-2 自分の進路に対して明確なビジョンを持ち、将来活躍したい分野について説明できるとともに、意欲的に取り組むことができる。 ③-3 身近な先輩の体験談を通して、学ぶことの必要性を理解し、主体的に学んでいる。	③-1 オープンキャンパスやシンポジウムについての事前調べや、事後の発表などを通して、大学の教育力を有効活用する。 ③-2 S3のチャレンジンググループ活動の中で、進路決定につながるような取組を行っていく。 ③-3 上級生やOB・OGによる講話の機会を通して、学ぶことの意義を考えさせるとともに、自主性が高まるよう刺激する。	・オープンキャンパス参加者は意識も高く、レポートなどの提出も良好であるが、継続的に努力をしている生徒は多くない。	B	・進路意識の低い生徒への早期の面談、粘り強い指導を行う。
情報収集、情報発信の充実	【新項目】 学校の魅力、生徒の活動状況を積極的に情報発信する。	【パイオニアホーム】 ○公立鳥取環境大学での講義、岡山操山高校のリーダー生徒との交流などパイオニアホーム育成の企画により生徒のリーダー性や学校牽引役としての意欲が向上した。 △パイオニアホーム企画の計画が遅れたため、一部夏休みを活用できなかった。	③-4 パイオニアホームの自覚を持ち、1年を通じて学校内外の活動に参加している。 ③-5 学校におけるパイオニアとしての自覚を持ち、自主的・主体的に学校行事に取り組む。	③-4-ア 定期的に他ホームに対するの情報発信を行う。 ③-4-イ 長期休業に具体的なテーマを与えて調査研究するなど、パイオニア独自の企画に取り組む。 ③-5 パイオニアホーム企画を早期から計画・実行し、パイオニアホーム生としての自覚を高めさせる。	・岡山操山高校の数学の先生を招聘し、魅力ある講義を受け、チャレンジングすることの大切さを学んだ。 ・英字新聞を教室に置くなど独自企画も行っているが、パイオニアホームとしての自覚が不十分な生徒は多い。	C	・「パイオニアホームとは」を明確にし、教職員が再度共通理解を図り、実践する必要がある。
		【ホームページの運用】 <更新頻度> △ホームページの更新が、一部の教員による。 △ホームページのリアルタイムでの更新が少ない。 <内容> ○学校行事や部活動等、学校の取組や生徒の状況を伝える記事が増えてきた。 △報告は増えてきたが、案内など事前の紹介が少ない。 △新聞やTV等のマスメディアへ情報提供が少ない。	①-1 学校ホームページに常に新しい情報がアップされており、見やすい。 ①-2 各職員が担当した行事の様子、部活動の成果等を速やかにホームページに掲載する。	①-1-ア ホームページ訪問者数の増加に努める。 ①-1-イ 保護者説明会、3者保護者会、ミツシステムなどで、情報発信する。 ①-2 ホームページ、季刊誌など、情報発信の媒体ごとに、対象(読者、閲覧者)、掲載内容、方針を明確にする。	・ホームページへ情報をアップする教員数が昨年より増えているがまだ少ない。 ・掲載にスピード感が欠けることがあり、リアルタイムでの更新・情報発信が不十分であった。	C C	・速やかにHPへアップできるように、行事毎に担当を明確にする。
		【中学生体験入学・中学校での高校説明会】 ○中学生体験入学では、2日間で350名の参加があった。 ○アンケートでは、83.5%が大変参考になったという意見であった。 ○中学校からの要望で、中学3年生及び2年生に学校紹介を行った。	①-3 中学生体験入学者の参加数が400人 ①-4 中学生や地域の方が西高の情報を手に入れている。	①-3-ア 映像を活用した資料を作成し、視覚的にも西高の取組を伝える。 ①-3-イ 体験入学は中学生だけでなく、保護者の参加も企画する。 ①-4-ア 西高の情報紙を置ける場所を増やす。 ①-4-イ 部活動の大会成績などの記録・管理して紹介するとともに、生徒の声や感想も載せて関心を高める。	・中学生体験入学参加者 中学生 356名、保護者 33名 ・目標の400名には達しなかったが、参加した中学生には概ね好評であった。S3生徒代表のチャレンジンググループ活動発表も好評であった。 【アンケート結果】 大変参考になった 85.6% どちらかと言えば参考になった 13.7%	B	・各中学校で開催される高校説明会で、最新の活動状況を含めて魅力発信をする。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[90%] [80%] [60%] [40%] [30%]